

令和3年度岩手県立美術館協議会議事録

1 日 時	令和3年12月21日(火) 10:00~11:40
2 場 所	岩手県立美術館 会議室
3 出 席 委 員	石塚庸子、伊藤真紀子、内村弘子、長内努、菅しのぶ、菊池房江、熊谷和浩、佐藤あい子、樋下照男、藤原哲、山口真樹(以上11名)
4 欠 席 委 員	大衡彩織、梶田佐知子、日野美和、八重樫利久(以上4名)
5 (県側出席者) 生涯学習文化財課	藤原安生総括課長、佐々木義秋生涯学習担当課長、戸塚顕主任主査、山崎美咲主事
6 文化振興事業団	山崎隆事務局長兼総務部長
7 美 術 館	藁谷収館長、小笠原誠企画参事兼副館長、千田貴浩総務課長、吉田尊子学芸普及課長、加藤俊明上席専門学芸員、土谷文子主任専門学芸調査員、吉田秀幸主任主査、杉田友視主任

1 開 会	事務局より、委員15名のうち11名の出席により、岩手県立美術館管理運営規則第9条第2項に規定する委員の半数以上の出席という要件を満たしている旨報告された。
2 委 員 紹 介	(出席者名簿により自己紹介)
3 職 員 紹 介	(出席者名簿により出席職員を紹介)
4 館 長 挨 拶	藁谷館長より挨拶があった。(挨拶内容省略)
5 議 長 就 任	岩手県立美術館管理運営規則第8条第2項の規定により、議長は会長が務めることとされていることから、以後の議事は、石塚会長が進行した。
6 議 事 (1) 説明事項 説明事項 ア 【質疑応答】	「岩手県立美術館の概要について」(資料1) 事務局から資料1により説明を行った。(説明内容省略) (特になし)
説明事項 イ 【質疑応答】	「令和2年度美術館協議会における主な意見・要望とその対応状況について」(資料2) 事務局から資料2により説明を行った。(説明内容省略)
◆ 長内委員	東北造形教育研究大会の鑑賞授業にアートカードを使用した出前授業を行っているが、美術館の職員がアートカードを使ったいろいろな鑑賞授業を行うことは、非常に効果的だと思う。 それと関連して、鑑賞補助教材としてアートカードや所蔵作品パネルの貸出しを行っているということは、おそらく貸出し先の学校の教員が使われるということだと思うが、その教員向けに指導方法とか、何か美術館の方から伝える機会があるかどうか。
◆ 美術館	小学校の指導要領、補助教材にも使い方は載っている。あとはホームページのほうに、国立の美術館とか、様々な美術館で出されている使い方とかというものもあるので、そちらのほうを参考にしようとお勧めすることもある。貸出しの際に、こういう使い方もあるというのは、その先生にはお伝えしている。
◆ 長内委員	例えば指導される先生方に、美術館のコレクションの良さとか、それぞれの作品の良さとか、それぞれの作品の情報というものを伝える機会があるかどうか。

◆ 美術館	<p>基本的にアートカードは鑑賞の導入という形で解説無しで楽しむものなので、作品一つ一つに対しての解説や、良さを伝えるというよりは、児童生徒の皆さんが自分の感性で見つけるというようなものが目的で、作品について詳しい情報というのは、児童生徒さん向けのものはない。ただ、指導する先生向けに、プリントとして基本的な作品の情報は添付している。</p> <p>また、コレクション展は年4回展示替えがあるので、その展示替えに合わせてアートカードも4回作り直しており、アートカードで触れた作品は、その期間は美術館に来れば直接本物を見ることができるようになっている。</p>
◆ 石塚委員(会長)	<p>何かマニュアルとしてあれば先生方も進行しやすいかなということも、話を聞いて感じた。作品に対する感想ということではなくて、どういう進め方をしたら効果的に子供たちの感性に伝わっていくのかなというところでの質問だったのかなというふうに思います。</p>
◆ 佐藤委員	<p>実際に、前任の学校で美術館職員に来ていただき、アートカードの授業もしていただき、その後、先生方が美術館職員から教えていただいた方法で授業展開もした。参観日では保護者にもアートカードを使って、共に鑑賞し合う授業を提供していただいた。</p> <p>また、東北造形教育研究大会の事前研で、美術館で収蔵している岩手県と同じ作家の作品2点を借り、美術館の作品もいろんなものがあり、県内には私たちが知らない作品がたくさんあるのだなということを学ばせていただき、教育に関わってくれるありがたい美術館だなと思っている。</p>
◆ 長内委員	<p>活用されているのがよく分かりました。</p>
説明事項 ウ 【質疑応答】	<p>「令和3年度事業実施状況について」(資料3) 事務局から資料3により説明を行った。(説明内容省略)</p>
◆ 菅委員	<p>東山魁夷展、深堀隆介展、足立美術館展など、非常に楽しませていただいたと思っている。感染対策もきちんとしており、非常に企画も素晴らしかったなと思っている。</p> <p>ギャラリートークですが、学芸員の方々の説明を聞くのと聞かないのとでは全く違うなと思っており、実施日が金曜日に設定されているが、勤めている方々は土日であると非常に行きやすく思う。この曜日設定は全部決まっているものなのか。</p>
◆ 美術館	<p>特に金曜日で固定というわけではなく、過去に土日祝日に設定したこともある。確かに金曜日というのは平日の昼間なので、特定の方しか来られないという課題も認識している。ただ、展覧会によっては土日祝日に開催すると、お客様が多くなり過ぎて支障が出てくることもあり、今は金曜日に行っている。土日祝日の開催要望があることについては、今後検討したいと思う。</p>
◆ 菅委員	<p>機会があれば自分も参加したいと思っている。</p> <p>それから展示室内に看視員が配置されているが、説明はできない仕組みになっているのか。</p>
◆ 美術館	<p>県立博物館は、看視も兼ねて解説員が展示室の中にいるが、美術館はそういうことはしていない。まず最前線でお客様の声を聞く立場にあるので、本当に簡単な質問など基本的なことはお答えできるように研修や情報提供はしているが、当然内容によっては難しいことがある。その時は学芸員に伝えるようお願いしている。</p>
◆ 菊池委員	<p>アウトリーチ事業の美術館出前授業ですが、276人の参加者があり、いろんな地域を地区ごとに順次実施しているようだが、どういう地区、どれぐらいの学校に出向いているのか。</p>

◆ 美術館	<p>今年度までは5か年計画で、美術館から遠い地域、遠隔地を中心に回ってきた。来年度からは県内全域を回ろうということにしている。ただ、地域を分けないと全部から申し込みを受けるのは難しいので、全部で6つある教育事務所のある地域毎に分けて順番に募集していこうと考えている。</p>
◆ 菊池委員	<p>例えばアートカードを使い、いろんな授業をしたとき、次の段階として、それにつながって美術館で関連する展覧会があった際、その授業をしたところの方々をお招きし、実際に作品を見て体験する機会を作るなど、次のステップへ上手につながる格好で出来ればいいのかと思う。</p> <p>以前は沿岸部からバスで直接美術館に連れてきていただいたこともある。震災復興の一翼を担っているという格好だと思う。美術は心のケアということで、コロナ禍が沈静化したときに美術館に心の安らぎや、勇気や元気をもらうために、それぞれ感染防止に努めながら、その中で楽しみを意欲的に探そうとしている方々もたくさんいると思う。</p> <p>その時に望まれることは図録であり、図録があればその時見たものを、家に帰ってから何回でも繰り返し見られる。すごくそれを感じたのは日展の会場だった。図録の中に別冊で作者の全部の作品コメント、制作意図が全部書かれており、受賞作の審査講評も1作ずつ全部記入されていた。作者の制作意図を見ながら会場内を歩いている方々もたくさんいて、これが新しい傾向なのかと思った。図録が自分たちの宝物として、何回も繰り返し読める大事なものとして生活の中に定着していることに感動した。</p> <p>なにか、そのようなものがあれば本当に一般の方々にも楽しんでいただけたらと思うので、よろしくお願ひしたい。</p>
◆ 美術館	<p>まず、バスのことですが、遠隔地からバスで美術館に来ていただくことは震災前にもやっていた。その事業を終了したのは、予算的なこともあるが、旅行会社的な事務の部分が多かったのが大変だったことがある。また、昼食にイオンに行ったりすることのほうが楽しかったというようなこともあり、総合的に勘案してその事業は一旦終了させていただいた。</p> <p>また、震災以降は県の教育委員会でもいろいろな予算、基金などがあって事業展開をしたと思う。</p>
◆ 生涯学習文化財課	<p>いわての学び希望基金を活用しながら、沿岸の各学校から希望があればそういったところについても活用できる事業があり、各学校のそれぞれの実情に応じて活用する形になっている。</p>
◆ 美術館	<p>このような状況もあり、今は美術館で特にバスを仕立てることは行ってない。コロナ禍の状況も見極めながら、これまでのような活動に戻していくかは慎重にやっていきたい。</p> <p>また、図録については、各展覧会で図録を作成し販売している。一般書籍のスタイルをとることもあれば、館内だけ、展覧会の場所だけというのものもある。菊池委員がおっしゃったのは日展の会場のことだが、当館でいうとアートフェスタが一番近いと思う。アートフェスタはいろいろと状況が変わってきており、写真撮影が可能になったことや、コメントを出す方もいれば出さない方もいたりなど様々である。図録という紙媒体だけでなく、今後デジタル技術も使ったいろいろなことも出てくると思われる。そういったことは美術館も課題意識をもち、どういうことができるのか考えていきたいと思っている。</p>

◆ 石塚委員(会長)	いわての学び希望基金がどのように活用されているのか聞いて、あまり目に触れなくなってしまったなと思った。主催側だと手間が大変だろうなと想像はついたが、学校主導で何かオファーが来るとすごくいい流れになりそうだなと思う。やはり移動手段がどうしてもお金がかかり、すごく苦勞されているところだと思うので、そういうところが少し分かりやすく、例示的なものがあれば皆さん使いやすくなるのかなと感じた。
◆ 生涯学習文化財課	いわての学び希望基金の関係で補足させていただく。 組織再編があって、文化芸術業務が文化スポーツ部に移管したのだが、「年間こういった企画展をやっていますよ」と、博物館も含め沿岸被災地の学校に文化スポーツ部のほうから基金を活用して鑑賞できることを案内している。バスの契約なども文化スポーツ部で行うので、学校が手を挙げさえすれば無料で鑑賞できることにはなっており、あとは学校のほうで年間行事の調整を行うなど、学校側に判断していただく流れになっている。
◆ 石塚委員(会長)	ルートはもう出来ているということです。
◆ 山口委員	岩手県は広いので、美術館に美術の授業で来て1時間鑑賞するとなっても、移動にプラス1～2時間かかる。そうすると1日の学校カリキュラムを崩さなければならなくなる。学校には1人1台端末が配置されているので、映像を通しての学び配信を行う予定があれば、そちらのほうがかきっともっと身近な感じになるのではないかな。実際に立体的に見たくなれば、家族で来ていただくという方向のほうがかもっとスムーズになるのではないかな。
◆ 美術館	今年、実際に美術館でも何回かリモート講演会を行い、やってみると意外といいものだなというか、全然遜色のない情報のやり取りができる感じた。美術館でもデジタルツールを使った鑑賞支援というものを、これからやっていかなければと考えている段階である。そういうことが出来ると、もっとスムーズに事柄が進み、実際に見ていただくための予習や心構えができ、作品に出合っただけでなく後にもいろいろ深めていただくなど、デジタルで無限に広がる部分があると思うので、その可能性は美術館も考えていきたいと思う。
◆ 山口委員	個人的にも彫刻だとか美術館では立った状態でしか見られない。しゃがんで見るとかは周りの方が気になるので。デジタルで映像を動かせると、本当に360度見ることが出来る。子供たちもタブレットを動かしてみるのが大好きだと思う。
◆ 美術館	美術館が開館したときに所蔵作品のデータベースを整備し、ホームページで開館当初から公開している。小さい画像から大きな画像まで提供できるようになっており、彫刻作品のいくつかは四方八方から映像を撮って、ぎこちないものだがグルッと見られるものもある。今は技術が進んでいるので予算面などの課題はあるが、そういうニーズがあることは認識している。
◆ 藁谷館長	20周年を迎えて、委員の話されたことが美術館で一番欠落している部分だと思う。いろんなアイデアはあるが、具体的に機材の整備とかがまだ進んでいない。これから検討するのでよろしくお願ひしたい。
◆ 伊藤委員	昨年のアートフェスタの時に、出展作家全員ではないが受賞された方々のギャラリートークをコンパクトに編集して発信していたと思う。私はギャラリートークに行けなかったので、それをネットで見てすごく参考になりいい取り組みだと思った。今年もぜひ継続していただきたい。いろいろなSNSがあり、短い動画でちょっとずつ配信されていくと、若い人たちはそういうところから入ってくるので、ぜひ続けていってほしいと思う。
◆ 石塚委員(会長)	新しいアイデアをいただいて、ちょっとずつでも新しい形が何か見えてきているかなと思う。苦勞も多いとは思ひが、ぜひよろしくお願ひしたい。

説明事項 エ 【質疑応答】	「観覧者数の推移について」（資料4） 事務局から資料4により説明を行った。（説明内容省略）
◆ 菅委員	令和元年度は異常に観覧者が多いが、どういうことがあったのか。
◆ 美術館	12月から2月にかけて、テレビ局と共催でジブリの大博覧会という展覧会を開催し、予想を大幅に超えて公式には32万人余りの観覧者数があった。チケットを必要としない小さな子供を入れると35万人を超え、この年は突出している。
◆ 菅委員	若い方々が美術館に足を運ぶ機会として、すごくいい企画になったのではないかと思います。美術館に足を向かせるきっかけ作りになる、こういう素晴らしい展覧会があればいいと思う。
◆ 美術館	コロナの影響を免れて幸運だったと思う。
◆ 石塚委員(会長)	やはりコロナで中止になった展覧会は、準備を何年も前からされていたと思うので本当に無念だったと察している。
◆ 菅委員	ムーミン展を見たかったという方がいらっしゃったと聞いている。残念だったんだろうなと思う。
◆ 美術館	ジブリ展から一転して難しいムードになってしまった。今でもムーミン展を開催してほしいという声は、お客様アンケートに必ず上がっている。
◆ 伊藤委員	お願いなのだが、昨年度の協議会が終わった後に開催された企画展の人数を、どこかでお示しいただきたいと思う。次回以降で構わないが、協議会以降の結果がどうなったのか分からないので。
◆ 美術館	次の協議会で示したいと思う。
説明事項 オ 【質疑応答】	「令和4年度事業実施計画について」（資料5） 事務局から資料5により説明を行った。（説明内容省略）
◆ 石塚委員(会長)	私は今回で任期満了となるが、以前に常設展をコレクション展に名称変更してはどうかとの意見が出され、検討中との話を聞きながら、実際に在任中に名称が変更になったことは、美術館の印象が近づきやすいというか、興味を感じるような雰囲気になり、非常に個人的に感慨深く、すごくうれしく思っている。
◆ 菅委員	コンサート事業で、以前ナイトミュージアムを開催していただき、すごく楽しませていただいた。コロナ禍でなかなか難しいと思うが、コロナ禍が収まればまた開催していただけるのか。 また、企画展を考えると、どういう形で決まっていくのかお教えいただきたい。
◆ 美術館	ナイトミュージアムについては、コロナ禍が収まれば、また皆様に楽しんでいただきたいと考えている。
◆ 菅委員	建物を生かすということで、すごく素晴らしいと思っていたのでぜひお願いしたい。
◆ 美術館	企画展については年6本あり、アートフェスタを年度末恒例の形で開催しているので、残りの5本をどう考えるかということになる。1つは自主企画展を必ず1本は開催するというので、今年度は菅木志雄展を開催している。昨年度は唐武さんの写真展を開催しており、学芸員の調査研究成果を出す自主企画展を年に1本は開催することを考えている。残り4本については、いろいろなお客様のニーズがあるので、バラエティーに富んだラインナップにしたいと考えており、様々なジャンルのものをバランスよく入れたいということを中心に考えている。企画展の情報は新聞社、テレビ局、企画会社などが企画案を持ってきて、「一緒にやりませんか」というオファーが絶えず寄せられてきている。その中から美

	<p>術館の関心だったり、いろいろな状況、バランスを勘案したうえで検討の俎上に載せて、トータルに判断することになる。また、他の美術館と共同で研究を進め、それを展覧会の形にして巡回展として開催するスタイルもある。</p> <p>このように情報を絶えず入れながら、年に何回も企画会議を行い素案をまとめ、県に報告のうえ予算要求する形になっている。</p>
◆ 菅委員	企画展によって予算も様々だと思うが。
◆ 美術館	経費がかさむ大規模な展覧会もあれば、コンパクトにできるものもある。決してお金をかければいいというものでもないので、お客様のニーズを常にアンケート等で把握している。また、誰かの生誕100年記念など、企画が寄せられる様々なタイミングもあるので、それらを総合的に判断して決めている状況である。
◆ 菅委員	基本理念で「地域性と国際性を併せ持つ美術館」とあるが、国内の方の作品は結構拝見するけれども、海外の方の作品も予算がすごくかかると思うが、若い方々の目に触れる機会もあればいいかと感じるので、海外物もまた企画していただければと思う。
◆ 美術館	美術館のコレクションが岩手ゆかりの作家の作品なので、企画展ではそれ以外の様々なジャンルのものをお見せしたいというところが意識にある。当館には日本画のコレクションはないので、ときどき足立美術館展のような日本画を見せる展覧会を開催したいと思っている。また、海外のものも可能な範囲で開催していきたいと思っている。海外作品についてはコロナ禍の影響で急激に企画数が減っている。もう少し状況が好転すれば海外物の企画を積極的に取り入れたいと思っているが、予算のことなどもあり、状況が難しいところではある。
◆ 石塚委員(会長)	海外物というのは、日本にある海外の絵画を借りて展示するようなことも可能性としてはあるのか。
◆ 美術館	テーマにもよるが、そういうことも可能だとは思う。
◆ 伊藤委員	来年の企画展のラインナップで、岩手県ゆかりのものが3本あるがとても素晴らしいと思う。有名な作品もちろん見たいと思うが、県を代表する美術館なので、やはり地元、岩手県の美術というのが大きいテーマだと思う。今回の20周年という冠がついた企画展においても岩手県ゆかりの作家を取り上げるというのがすごくいいと思う。来年も岩手や東北をテーマにした展覧会を年間半分の3本も開催するというので、すごく楽しみにしている。これからも岩手の美術を盛り上げる中核館としての役割を、ぜひ担っていただきたいと思う。期待している。
説明事項 カ 【質疑応答】	「令和4年度企画展概要(案)について」(資料6) 事務局から資料6により説明を行った。(説明内容省略) (特になし)
(2) 協議事項 【質疑応答】	「岩手県立美術館の運営について」 事務局から情報提供は特になし。
◆ 熊谷委員	<p>昨年お願いした教育普及活動に関して、今回お聞きし、大変取り組んでいただいていることを実感した。</p> <p>先ほどから話題に出ている予算的な事柄について、こういった場でお聞きしたりできるものか。私は県立学校に勤務しているが、今年はかなり予算が削られている。私も本当に海外の作品等を拝見したいと思っているが、美術館の運営は予算的にどうなのかと。</p>

◆ 美術館	運営のところでは、来年度は江口寿史さんの展覧会を岩手めんこいテレビさんと一緒に組んで開催するなど民間とも連携し、うまく工夫しながら取り組んでいる。また、民間企業からの協賛を取りつけるなどの工夫も徐々に行っている。
◆ 熊谷委員	コレクション展の話もあったので、どの程度コレクションに使える予算があるのかなという思いもあったので。 作品購入の充実度を高めていくことが可能な状況にあるのかどうか気にかかったので。
◆ 美術館	購入に関しては、県に美術品を購入するための美術品取得基金が設置されており、それを用いて作品を収集しコレクションの拡充に充てている。ただし、基金といっても現在は取り崩しており、いずれ底をつく。他の美術館から話を聞くと購入予算が全くない館も少なくない。そういうところに比べると当館はいい状況であると思う。震災の年やそれ以降、少しずつでも収集は進めている。いい作品が出てくるのにもタイミングがあるので、今はそれを有効に活用させていただいている状況である。
◆ 長内委員	東日本大震災の後、美術館の企画展予算がゼロになりどうするのかと思った時でも、止まることなしにいろいろ工夫し、地元の作家の方に声をかけて歩いたり、企画展を開催したりした努力の結果が、来年度5本目の企画展である岩手の現代美術展につながったのだらうと思うと、非常に感慨深い。非常に楽しみにしているが、そういう予算のことだけではなく、地元で活躍されていた作家の方々、唐武さんもそうだと思うが、非常に目立たないところに光をあてた展覧会など、予算が少ないながらも素晴らしい展覧会を企画してほしいなど期待している。
◆ 伊藤委員	購入に関しては基金があると聞いたが、修復関係は年度毎の修復計画で予算要求していると思う。美術館のメインコレクションである萬鐵五郎の作品がそろそろ傷みが激しくなってくる時期かと思うが、後世に伝えていくために、今後ともぜひ県のほうにも修復の予算は削らないで要求どおりつけていただきたいとお伝えください。
◆ 美術館	修復については、予算をつけていただいている。当館のコレクションは紙作品が結構多いので、適切に保存し、良い状態を長く続ける処置を中心に行っている。修復というと破れや絵の具の剥がれといったものの修復というイメージがあるかと思うが、基本的には状態をより良くしていく作業のほうが多いと思う。 ただ、新しい収集作品のなかには状態が悪いものもあり、そういったものを修復して展示できる状態に持っていくことも必要なので、そのような状況にも対応できるような予算組みをしている。
◆ 石塚委員(会長)	修復をする方は、岩手県内の方なのか、あるいは県外の方なのか。
◆ 美術館	基本的には関東方面に送って修復していただくことが多い。
◆ 石塚委員(会長)	観光業というところでは、おかげさまで安比高原のほうでリブランディングということで、世界で100か国以上、5千以上のホテルを持っているインターコンチネンタルホテルズグループのブランドを得て、国際リゾートを目指す形で、ANAクラウンプラザリゾート安比高原とANAホリデイインリゾート安比高原の2つのホテルがオープンし、来年にはIHGグループで最上位にランクするANAインターコンチネンタル安比高原リゾートがオープンする。 インターコンチネンタルがターゲットとしているお客様は旅慣れた富裕層ということで、そういった方々は旅先での文化、芸術に触れることをとても望んでいるお客様が多いとのことだった。そうなったとき、一番にお勧めするのはやっぱり美術館だと思うので、5年後、10年後、どんどん海外のお客様がいらっしやるようになれば、美術館を訪れる

	<p>方が増えるのではないかと思っている。</p> <p>また、ハロウィンターナショナルスクールが来年開校するので、父兄などが岩手を訪れた際に、美術館をちょっと見てみたいと思えるような情報を発信する。旅行会社のプランに美術館も一緒に入り、岩手の芸術に触れるといった提案もできるのではないかと感じているので、ぜひ情報の発信をお願いしたい。</p> <p>確実に変わる部分かなと感じている。</p>
◆ 山口委員	<p>よく家族で美術館に来るが、小学生だと美術館から配布されているものは読みづらいと感じる。子供目線のリーフレットも作っていただくと、一緒に回りながら親がこの作品はと説明して、子供自身がそれを読みながら進んでいけると思う。大人が見たい部分と子供が見たい部分は違って、館内でも離れ離れになったりする。やはり地図が載っていて、ここにはこういう人たちの作品があって、岩手の人たちなんだよ、みたいなものがあると、もっと興味を持って子供たち自身だけで見て回れるのかなと思う。</p>
◆ 石塚委員(会長)	<p>今話を聞いて、子供用の踏み台とかがあっても楽しいと思う。大人の目線と同じように子供も絵を正面から見られると思う。</p>
◆ 山口委員	<p>作品の脇に小さくプレートを貼って内容が書いてあるのですが、子供はそれを読めない。漢字だったり難しかったりするので、作品の雰囲気を壊さないために、子供が持てるもの(リーフレット)があればきっといいと思う。</p>
◆ 石塚委員(会長)	<p>いろいろなアイデアをありがとうございます。</p>
(3) その他	<p>「その他」について (特になし)</p>
(4) 閉会 ◆ 石塚委員(会長)	<p>以上をもって本日の協議を終了する。 (終了)</p>